

(様式)

普及項目	資源管理
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明海

## 新たな被覆網によるアサリ保護試験(横島地区)

県北広域本部水産課・永田 大生

### 【背景・目的・目標(指標)】

アサリの保護手法の一つである被覆網について、その有効性を広島県などが報告しているが、管内では、波浪の影響による網の剥がれや管理負担などの理由から、普及が進んでいない。そこで、管内に適した設置手法を検討するため、昨年度から漁協と連携し、小型の被覆網と杭を用いた新たな手法の試験を行っている。今年度も継続して本手法の効果を把握するためのモニタリングを行い、管内に適した設置手法を開発することを目的とした。

### 【普及の内容・特徴】

#### (1) 被覆網の設置

月日：令和3年(2021年)1月18日

場所：玉名市横島西漁場(平成28年(2016年)施工の県営覆砂漁場)

方法：アサリ稚貝の発生が確認された漁場に、試験区と対象区の被覆網を設置した。試験区は、目合い9mm角目、大きさ4m×3mのラッセル網の縁辺部にコンポーザを設置して網をロープで結合するとともに、長さ50cmのプラスチック製杭を約50cm間隔で打ち込んだ。また、被覆網を設置しない2m×2mの対照区を用意し、アサリの生息密度や成長などの比較検討を行った。

#### (2) 生息状況調査

月日：令和3年(2021年)3月15日、4月15日、5月11日、6月11日、7月14日、8月11日

方法：被覆網下を10cm方形枠で8~16カ所、対照区4カ所を枠取り後、現場にて2mm角目の篩で篩い、篩に残ったアサリを計数して、推定生息密度を算出した。併せて、現場にて殻長を測定した。

結果：被覆網の破損、埋没及び流失は確認されず、小型の被覆網を用いたことで、波浪による影響を最小化できたと思われた。試験区のアサリの生息密度は519~1,275個体/m<sup>2</sup>で推移し、4月に増加したが、その後減少し、8月には600個体/m<sup>2</sup>となった。一方、対照区は8月には75個体/m<sup>2</sup>まで減少し、約8倍の生息密度を示した。また、調査開始時の平均殻長18.0mm(n=44)は7月には30.1mm(n=91)になり、約6割が殻長30mm以上に達した。

### 【成果・活用】

今回の試験結果より、管内で小型被覆網の有効性を確認することができた。網を小型化したことで管理の省略化にもつながると思われた。当地区で得られたデータは、管内での小型の被覆網の有効性を普及していく上で重要なデータとなると思われた。

### 【達成度自己評価】

4 目標(指標)はほぼ達成できた(76~100%)

(様式)

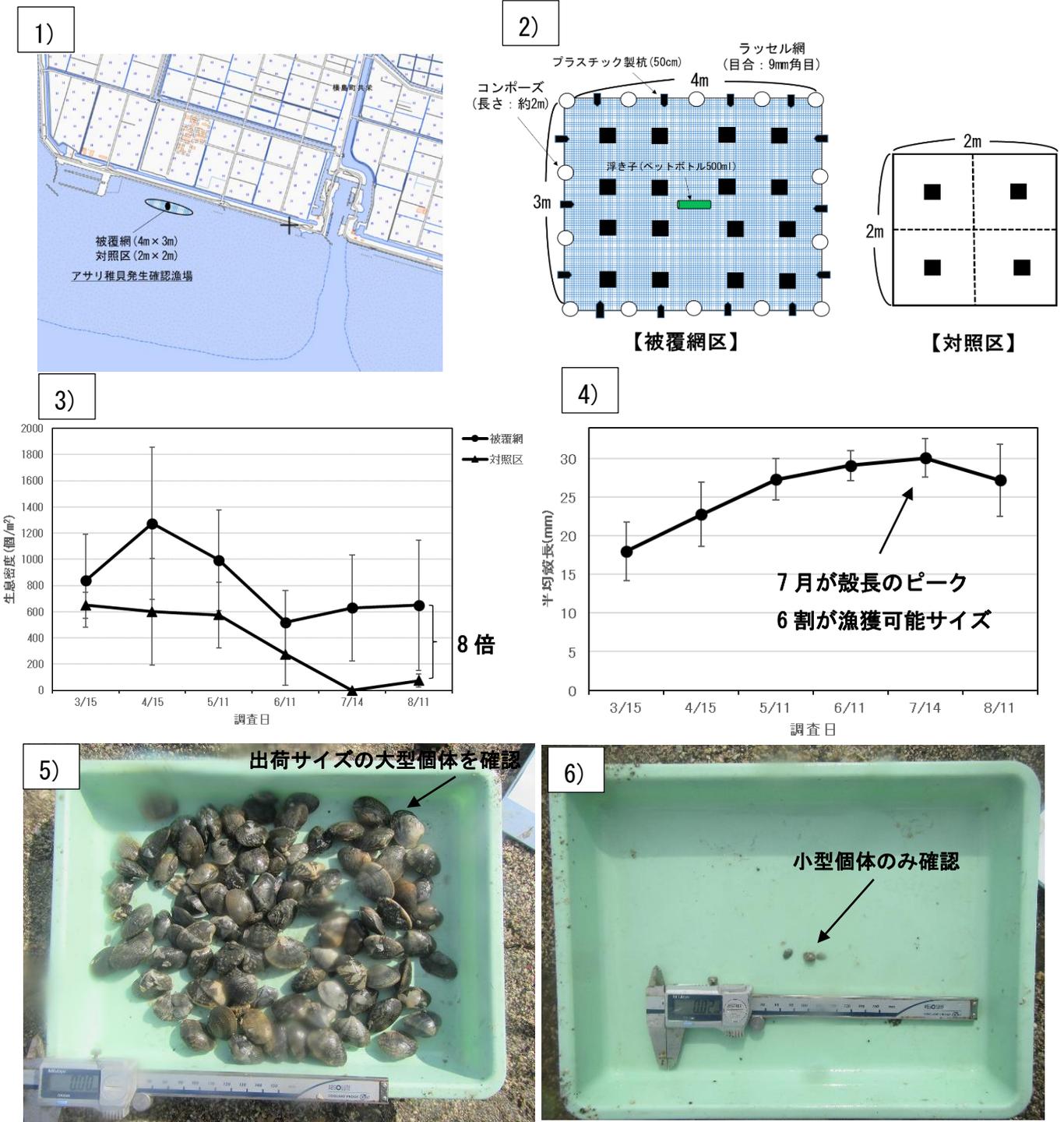


図 1 試験漁場(横島西漁場)

図 2 試験区の設置方法(各試験区の■は 10cm 方形枠によるサンプリング地点を示す。)

図 3 試験区の生息密度の推移(※バーは 4~16 サンプルの標準誤差を示す。)

図 4 被覆網下に生息したアサリの殻長の推移(n=44~93)

図 5 被覆網下で確認された出荷サイズの大型のアサリ(※8 月 11 日調査時)

図 6 対照区で確認された小型のアサリ(※8 月 11 日調査時)